

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 2 月 11 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人 イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	岐阜市芥見野畑1丁目25番地 (電話) 058-241-2100		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成21年1月28日	評価確定日	平成21年2月26日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの周囲は田んぼもある静寂な地域で、法人関連の福祉施設や医療機関が近隣にある。4階にあるホームからは、外の展望も良い。出入りは主にエレベーターで行っているものの、併設施設の中の一画にあるホームは空間が広く、玄関・出入り口は開放的である。管理者や職員は、できるだけ本人の力を引き出せるような支援に努めている。地域の人々との出会いや地域での行事への参加が、入居後も可能となるように、運営推進会議や関係者に働きかけ、地域の「いきいきサロン」へ出かけることもできるようになった。指の運動を意識した作品づくりを行い、福祉フェスティバルへの参加も3年目を迎え、準備の作品づくりを楽しんでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）
	前回課題になった、災害対策や地域とのつながり、同業者との交流について優先順位をつけ改善計画を立て改善に向け実施し、実施後の検討を重ねている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	管理者と職員が日々の振り返りとして自己評価を行った。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	ホームから、利用状況報告、利用者の外出に対する計画の説明やボランティアの活動報告を行い、地域での行事や「いきいきサロン」へ利用者が参加するため、自治会役員への協力依頼等に取り組んでいる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	「家族の会」は3ヶ月に1回開催し、利用者の多くの家族が参加し、意見交換を行い、要望等を聞いている。また、面会時に家族との会話から意見や意向を聞き、意見は真摯に受け止め、検討、対応している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	職員は地域活動としてホーム建物周辺の側溝清掃を行い、積極的に地域に向く姿勢に取り組んでいる。利用者が地域の「いきいきサロン」に出かけたり、福祉フェスティバルに作品を出品し、また、見学にも出かける等利用者の地域での活動に繋がってきている。

【情報提供票より】 (平成 21 年 1 月 6 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	9 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	4 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,000~ 円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,050 円

(4) 利用者の概要 (平成 21 年 1 月 6 日 現在)

利用者人数	9 名 男性	0 名 女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.6 歳	最低 76 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	河村病院、河村病院歯科
---------	-------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に暮らした利用者がホームで生活するようになって、地域との関係性が断ち切れることなく継続し、利用者の生活の質の豊かさを支援できるように理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、地域との関係性を継続できるように働きかけ、職員がホーム建物周辺の地域の清掃活動を行い、地域住民との関係作りに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会役員等の協力で、地域で2ヶ月に1回開催される「いきいきサロン」へ出席できるようになった。施設の夏祭りや盆踊りのチラシを地域に配布し、利用者と地域住民との交流に努め、ホームとして地域に貢献できる事を検討し、実施を積み重ねている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義を理解し、日々のケアの振り返りの機会としている。外部評価の結果、改善課題について職員間で話し合い、取り組みを計画し、改善に向け努めている。運営推進会議での報告も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族の代表、自治会長、民生委員、包括支援センター職員、市職員、ホーム関係者等をメンバーにし、2ヶ月に1回開催されている。行事計画の説明やボランティア訪問時の様子、ホームの利用状況等報告を行っている。	○	会議への参加が少ないため、メンバーが参加しやすいよう、開催の曜日や時間を、時に変更し開催されたい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度上の問題等相談したり、情報収集、連携のために市を訪問している。福祉フェスティバルへの利用者作品の出品も市の理解と協力を得て実行できるようになった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者家族の面会は、毎週ある人も多く、その都度、健康状態や生活の様子を報告し、また、意向や希望の聞き取りも行っている。金銭については、預かり金の確認と残高を報告している。	○	毎月1回ホーム便りを家族に送付しているので、そこに1ヶ月間の個別の利用者の日常の報告を載せる等、個別の報告になる取り組みが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「家族の会」は、3ヶ月に1回開催され、多くの家族が参加しているが、不参加家族の利用者の気持ちに配慮し、1階の会議室で行っている。ホームから活動報告や今後の予定を連絡し、家族の要望や意見を聞いている。意見は真摯に受け止め検討し、対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設7年目を迎えるが、職員の大きな変動は無い。法人として職員教育のため、年に1人程度の法人内異動がある。開設以来、職員と利用者の関係が長く続き、利用者にとって安心の居場所であると、利用者・家族等の言葉がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、職員に外部の研修情報を提供したり、必要な研修については参加を指示し、また、関係機関からの情報の収集を図っている。職員に資格取得を推奨し、法人での学習会も行っている。	○	介護職員は経験年数を積み重ねているが、基礎的なケア技術の再確認や認知症の重度化、終末期への対応等に向けての研修が更に進むことが期待される。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は頻回ではないが連絡を取り合っている。ケアの研修会を通じ情報交換はある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前に、本人や家族に、ホームを見学し、雰囲気や場所を体験してもらうよう働きかけている。他の利用者に紹介したり、相性を見ながら少しずつ馴染んでいけるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の支度や後片付けを共に行ったり、作品づくりを通して利用者から学んだり、支えあったりの関係が日常にある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時の聴き取りや家族からの情報で把握に努めている。利用開始後は、会話はゆったりと、しっかり話を聞くことに重点を置き、職員間で話し合っている。聴き取った利用者の思いや意向は申し送りノートに記載し、職員間で共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の気持ちや面会時に確認した家族の意向等を参考にし、関わりのある看護師や主治医や精神科医、職員の観察や意見を集約し計画を作成し、それを家族に確認してもらい、同意を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の目標や課題を記載した実践記録に毎日、チェック、記入している。3ヶ月ごとに評価を行い、計画の適正を検討し、必要があれば見直している。また、利用者の状態の変化があれば、随時の検討・見直しも行っている。見直しについては、家族と連絡を取り、同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人は他の福祉施設や医療機関を運営しており、医療機関との連携がスムーズに行えている。また、職員が計画した踊りや歌のボランティア活動があり、併設の施設や事業所の利用者と共に楽しんでいる。	○	4階にある多目的ホールは、日本舞踊等のボランティア活動に利用され、併設施設の利用者も鑑賞に集まる場所であるが、真っ白い壁で殺風景である。舞台鑑賞に集まる場所としての工夫が期待される。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が法人の医師を主治医としており、月2回の往診がある。また、心療内科の医師の往診が月1回あり、回診に付く法人の看護師が医師の指示を受け、利用者の健康管理に配慮している。診察の結果は家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の疾患が重度になったり、緊急事態があった場合の対応を取り決めており、出来る限り支援している。現段階においては、利用者が手引き歩行での移動能力もあり、終末期に該当する利用者はいないが、家族から終末期対応の要望はある。	○	現在、終末期に該当する利用者はいないが、家族からの要望もあり、ホームも専門職の配置等の整備を含め、今後の課題としており、検討が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	個人への対応を大切に考え、利用者の中で他の家族や利用者のことを話さないことを職員間でよく話し合い、実行している。トイレや浴室は生活空間から目が届かない場所にあるが、細かくプライバシーへの配慮に心がけ、人としての尊厳を守る対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由な時間の過ごし方を支援しているが、人の気配の感じられる範囲での過ごし方を心がけ、その中でできる事で希望に添うことなどを提案し、支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者も参加し、ホームキッチンにおいて調理を行い、共に行うことを日常としている。できるだけ自分で食べるよう自立支援を行っている。また、月1回はホーム単独で食材の買い物に出かけ利用者希望の昼食を皆で作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日おきに用意し、1回20～30分入浴している。浴室の洗い場は広く、気のあった人同士で入浴することも多い。ホームと同じ建物内に特殊浴や機械浴のできる浴室もあり、利用者の状態により利用も可能である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	孤独にならないように、皆の気配を感じる場所に居られるよう支援している。各種雑誌が用意され、新聞の購読も出来る。居室で花の世話等を楽しむ人もある。紙を巻いて短く切ったもので絵画を制作し、福祉フェスティバルに出品し、皆で見学に行っている。	○	更には、今後、利用者の重度化に向け、本人の能力を確認し、現状に合った支援の必要量を職員間で共有し、日々のケアをする取り組みも期待される。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日は周辺を散歩したり、ドラッグストアへ出かけている。日常の外出支援に心がけているものの、距離がある場所への外出や季節ごとの花見、月1回の外食は行事計画を立て実施し、現在までは全員が参加できている。	○	ホーム内は室温環境が整っているため、毎日の生活で自然の気温を感じられるように、屋上等を活用し、外気に触れる工夫や取り組みも期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは建物の4階にあり、移動はエレベーターとなるが、ホーム内は開放的である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	前年度の課題でもあり、年2回の避難訓練を実施し、緊急時連絡網作成とその伝達訓練で確認をした。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	軟らかく調理された食事が提供されている。摂取量は確認され、記録に残されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間は広く、採光も良く明るい。トイレや浴室は、キッチンやリビング、居室とは異なる空間にあり、プライバシーへの配慮もしやすい。共用空間の温度は空調管理されおり、自然の気温は感じ取りにくい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には造りつけのクローゼットがあり、棚の上には家族の写真や小物が飾ってある。ポータブルトイレが設置されていたり、衣類がベッドに並べられていたり個人好みや状況にあった居室になっている。全体的に居室内の装飾は少ない。	○	居室の壁は白く病室の様であるため、工夫が期待される。

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。